

全国健康保険協会山形支部 第10回健康づくり推進協議会 議事録

開催日時 平成27年1月13日(火)13時30分～15時00分  
開催場所 山形グランドホテル2階 アルプス  
出席委員 加入者代表 1名  
事業主代表 1名  
健康保険委員代表 1名  
保健医療関係者 2名  
学識経験者 1名  
行政 3名

議長 仙道委員

議事次第

1. 山形支部データヘルス計画について  
中村保健統括リーダーより説明。
2. 平成26年度進捗状況(健診)
3. 平成26年度進捗状況(特定保健指導)  
冨田保健リーダーより説明。
4. その他保健事業  
中村保健統括リーダーより説明。

主な質疑・意見内容

1. 山形支部データヘルス計画について

<学識経験者>

データヘルス計画は三年をかけてやるということだが、一年ごとの目標は何か。

<事務局>

三年分のボリュームを一年ごとに割り振ってやる形となる。毎年事業実施のチェックをかけ、支部内で設置しているプロジェクトチームで検証を行う。

<学識経験者>

コラボヘルスというのは実際に事業所へ保健師が入っていくとのことだが、具体的にはどうするのか。

<事務局>

社長に対して健康づくりの勧奨を行い、事業説明を実施。理解を得られれば担当者と半年間どうやるかを決めていく。

< 行政 >

今年度米沢栄養大学と山形県で減塩プログラムの事業を実施している。(対象は大学の学生)。来年度は若手社員を対象として行う予定。データヘルス計画の内容と似ている事業なので、連携してできる部分について今後検討させて頂きたい。また、来年度、県で見える化マップ(健診受診率の市町村別マップなど)を作成したい。協会けんぽのデータもぜひ活用させてもらいたい。

< 事務局 >

12月に県担当者と打合せを実施し、減塩プログラムについてもご紹介頂いた。引き続き検討を重ね、建設業の方に使用可能かどうかも含め連携を模索したい。データについては個人情報に触れない範囲で提供可能。

< 保健医療関係者 >

減塩対策としてまず食事についてやっていくということだが、支部の管理栄養士も活用してどのように進めていくのか。

< 事務局 >

まずは食事に関するセミナーを実施する。カロリー・減塩について楽しく学んで頂くにはどうしたらよいか、現在検討している。塩や味噌など、実際にもものを見てもらいながら感じて頂く内容にしたい。

< 保健医療関係者 >

塩分摂取量の全国数値がまた下がる状況なので、山形は難しい部分もあると思うががんばって頂きたい。

< 行政 >

米沢市との連携という部分で、市との包括協定が進んでいるとのことだが、内容について具体的に教えて頂きたい。

< 事務局 >

始めに米沢市で国保データを分析され、やはり職域との連携が必要とのことでご相談を頂いた。連携してできる事業について検討したところ、健診の受診勧奨や職域への介入を共同で実施する方向で進んでいる。健診・重症化予防に関するデータなどを共有して効果的な事業実施につなげていきたい。

< 行政 >

山形市としても、全市民対象のがん検診の受診率がなかなか上がらないという課題があり、今後職域と協力していきたい。

< 保健医療関係者 >

健診機関としても特定健診や重症化予防(精検の受診率向上)など一緒にできることをさせて頂きたい。データヘルスでは血圧の数値を下げるということで、評価指標を用いて取り組みについて評価するということだと思うが、3年でどこまで目標としていくのか、1年ごとの目標についても決めた方がアプローチしやすいのではないか。

<健康保険委員>

データヘルス計画で食事についてまずやるとのことだが、地域ごとに好みがあり、特に建設業などであれば昼の外食は揚げ物が多い状況かと思う。毎日の食べ物のカロリーが目に見えるものがあれば、食事によって抑制していけるのではないか。

<保健医療関係者>

県栄養士会で外食料理の栄養成分表示という事業を行っている。(店でカロリーや塩分など表示したものを貼ってもらうもの)。こうしたものも一緒に活用して勤めて欲しい。

<事業主>

データヘルス計画の目標として 1.7mmHg を下げるとなっているが、この数値はどのくらい意味があるものなのか。

<事務局>

特定保健指導のアウトカム指標で、指導を受けると 1.8 ポイント下がるという数値があり、今回の建設業と支部全体平均との乖離幅が 1.7 ポイントだったことから、実行可能な数値と判断した。

<学識経験者>

血圧を 1.7 下げることが疾患の発症に即座に結びつくかどうかのデータはない。ただ、目標を少しずつ出して達成していけば予防につながるであろうということかと思う。

<行政>

参考資料で小国町の血圧リスク保有割合が非常に高く、置賜地域全体を押し上げている可能性があるが、小国町に大規模事業所はあるのか。

<事務局>

こちらで集中的にアプローチする被保険者 30 人以上の事業所で小国町の会社は 4 社。

<加入者>

健診受診率を上げるのは難しくなっている状況かと思う。会社に来てもらって受けてもらうのが大事。また扶養の方は会社から呼びかけてもなかなか難しい。村山市では保健委員が活動していて面談で受診勧奨をしているが、このようにやっていかないと受けてもらえないのではないか。また、血圧について外食で取る部分もかなり多い。県全体としてラーメン消費日本一といっているだけでなく外食産業からも減塩を働きかけて欲しい。

<事務局>

バス健診の情報提供も引き続き行っていきたい。市町村の取り組みについて、35 市町村の状況を見て、大きな自治体から少しずつやっていきたい。

<行政>

置賜地域の大規模 29 社のうち、50 人以上は何社あるのか。また、建設業で減塩というと、作業中に熱中症予防で塩飴などを摂取しているのも影響があるのでは。どのように指導していくべきか。建設業は有所見率も高い。

<事務局>

50人以上の事業所は29社中13社。塩飴の摂取など、整合性については不明。

<学識経験者>

建設業についてデータ分析を行う際にはいろいろな角度から分析を進めて欲しい。

2.平成26年度進捗状況(健診)

3.平成26年度進捗状況(特定保健指導)

<学識経験者>

継続事業が多い印象を受ける。事業をやってみてどのくらい効果があって、次の年どうするかという形が見えないとよくわからない。言葉上の継続では改善しない。

<事務局>

今回の資料では結果についてチェックしながら実績もお示ししたい。

<保健医療関係者>

国保連では何年も同じような人が保健指導でひっかかる。何年もそういった中でやっている人が集まらない状況になるようだが。

<事務局>

リピーターの問題については認識しており、次の年には趣向を変えないといけない課題がある。健診機関と相談しながら変えていきたい。過去実績を踏まえ、課題解消に努めていきたい。

<学識経験者>

特定保健指導について、市町村の関連はどうか。

<行政>

対象者が重ならないが、データの共有により全体像が見えてくる。

4.その他保健事業

<保健医療関係者>

重症化予防について。前回協議会でも述べたが、二次勧奨のHbA1c8.4%という値はあまりに高い。糖尿病専門医との話では非常に重症化してから受診されるとのこと。もっと低い数値の段階で実施してほしい。

<事務局>

勧奨の基準は全国で統一されており、支部単独で数値を変更してよいか不明。

<学識経験者>

全国基準はさておき、山形支部から本部に意見を出すべき。また、受診勧奨の効果が7.7%とのことだが、決して低いわけではなく、積み重なれば受診する人が増えるとポジティブに考えてよい。

< 加入者 >

県で受動喫煙防止運動をやっているのので、協会でもパンフレット配布など来年度実施してほしい。

< 行政 >

県では来年度『健康寿命日本一プロジェクト』と銘打って、健診受診率向上に関して、例えば従業員100%健診受診の企業を表彰する制度を設けたい。喫煙については今後いろいろな協会けんぽに協力をお願いしたい。

< 健康保険委員 >

予防について、特に食事は和食を勧めるイベントも全面に出して欲しい。

以上